

乳がん患者さんに対する 生殖医療についてのご質問

平成 21-23 年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業

「がん患者及びその家族や遺族の抱える精神心理的負担による

QOL への影響を踏まえた精神心理的ケアに関する研究」班

国立がん研究センター中央病院 婦人腫瘍科/乳腺科・腫瘍内科

加藤 友康、清水 千佳子、田村宜子

平成 24 年 1 月

このアンケートは若年性乳がん患者の方々の挙児希望をサポートするにあたり、生殖医療専門家の先生方にご協力・ご意見を頂きたく、日本生殖医学会のご厚意により実施させて頂くものです。お忙しい中大変申し訳ありませんが、ご協力いただければ幸いです。

本研究の背景

国内では40歳未満で乳がんを発症する若年者が年間約6000人、全体の約15%と比較的多いのが特徴です。患者さんに挙児希望がある場合、乳がん再発リスク・薬物療法により得られるメリットを十分勘案した上で、妊孕性を保持するような手段を検討する必要があります。乳がんの術後薬物療法には、化学療法による卵巣機能障害や、5年間と長期にわたるホルモン療法のため、将来の妊娠が困難となる可能性があります。米国臨床腫瘍学会をはじめとしたがん診療ガイドラインでは、若年がん患者に対して治療開始前にかん治療医よりがん治療の妊孕性への影響や妊孕性保持の方法についての適切な情報提供が行われていることが望ましいとされています。しかし、当班で2010年に行った日本乳癌学会乳腺専門医に対するアンケート調査の結果では、国内の若年の乳がん患者さんへの妊孕性に関する情報提供は未だ十分でなく、またがん治療医と生殖医療専門医とのコミュニケーションも不十分であることが示唆され、がん治療医から生殖医療専門医のご協力を頂きたいという要望が数多くありました。

当班では挙児希望のある乳がん患者さんを支援していくにあたり、生殖医療専門医の先生方に御協力頂き緊密な連携関係を構築していくが不可欠だと考えております。そこで生殖医療専門医の先生方が乳がん患者に生殖補助医療を提供することに対しどのようなお考えをお持ちなのか、またその実際の治療に対してアンケート調査を立案させていただきました。アンケート調査の対象は生殖医療専門医に限定させていただいております。

先行研究 (Shimizu, Kato, et al. Physicians' knowledge, attitude, and behavior regarding fertility issues for young breast cancer patients: a national survey for breast care specialists. Breast Cancer. e-pub ahead of print) の結果では、妊孕性温存についての積極姿勢に関連する因子として、乳腺専門医の背景因子として、パートナーの有無、50歳未満、女性医師が挙げられました。そこで生殖医療専門医の先生方の乳がん患者の生殖医療へ関わり方に影響を及ぼす諸因子を探索するため、アンケートには先

生御自身の臨床的背景、乳がん患者の妊娠・出産へのお考え、薬剤が妊孕性へ及ぼす影響についてのお考えなどの質問もごさいます。無記名でのアンケートではごさいますが、個人的な質問などにおいて不快に感じられる場合もあるかと思ひます。そのような場合には質問への回答のご記入は不要です。このアンケートを通じて、乳癌治療の専門医と生殖医療医とのコミュニケーションを円滑にし、ひいては乳癌患者の妊孕性に関するサバイバーシップの質の向上につながることを願っており、先生方におかれましては何卒本アンケート調査へのご協力を賜りたく存じます。なお、本アンケートの調査結果は、日本生殖医学会理事会とも協議のうえ、国内外の関連学会、医学雑誌に公表いたします。

本研究の目的

本研究の目的はアンケート調査を通して、若年乳がん患者に対する生殖医療の実態を明らかにし、生殖医療専門医の乳がん患者への関わり方に与える因子を探索することです。また若年乳癌患者の妊孕性保持にあたり、生殖医療の観点からの問題点を明らかにし、生殖医療を御専門とされる先生方と乳癌の治療担当医との円滑な協力体制を構築するにあたり改善を要することを検討したいと考えています。このアンケートは日本生殖医学会会員の先生方を対象としてお願いしています。

本アンケート文中に不快な質問がありましたら、その質問には
ご回答いただかなくても結構です。

◎先生ご自身についてお教えてください。

(あてはまるものに○をつけてください)

- ① 年齢 _____才
- ② 性別 男性・女性
- ③ パートナーはいますか？ あり・なし
- ④ 子供はいますか？ あり・なし
- ⑤ 勤務施設 大学病院 総合病院 クリニック
- ⑥ 施設規模(全科)
病床なし ~19 病床 20~99 病床 100~499 病床
500~ 病床
- ⑦ 乳腺科/乳腺外科の有無 あり・なし
- ⑧ 臨床医としての経験年数 _____年
- ⑨ 生殖医療経験年数 _____年
- ⑩ がん治療に携わった経験 あり・なし
ありの場合 その年数_____年
- ⑪ 身近に若年者のがん体験がおありになりますか
あり (ありの場合 ご自身 ご家族 友人)・なし

A. 乳がん患者の妊娠や出産の希望についてのお考えをおたずねします。(あてはまるものに○をつけてください)

質問 1 がん患者さんの妊孕性の温存に取り組むべきである。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 2 患者ががんで死亡するリスクを考えると妊娠出産は困難であると考ええる。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 3 遺伝性乳がんが心配である。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 4 自分の乳がんが子供に遺伝しないか心配する患者がいると思う。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 5 術後 5 年無再発でもがんの治療が妊娠出産より重要である。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

B. 乳がんと妊娠について

以下の設問に関する質の高いエビデンスは無く、主治医の判断により実際の治療が行われているのが現状だと思われます。そこで先生方のご見解についておたずねします。

(あてはまるものに○をつけてください)

質問 6 乳がん患者が治療後に妊娠すると癌が増悪・再発しやすくなる。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 7 化学療法施行後に妊娠した場合、流産や胎児奇形の可能性は増えると思う。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 8 LH-RH アナログは化学療法による卵巣機能障害の予防に有用である。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 9 レトロゾールによる排卵誘発は乳がんに影響を与える。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

C.日常診療(がん患者以外)の実際についておたずねします。

(あてはまるものに○をつけてください)

質問 10 診療の際、不妊治療が将来の発癌に影響を及ぼす可能性について患者に話す。

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 11 典型的な一週間のうち不妊症の患者を何人くらい診療していますか？

0-2 人 5-10 人 10-15 人 15-20 人 21 人以上

質問 12 典型的な一週間のうち採卵を行う患者は何人くらいですか？

0-2 人 5-10 人 10-15 人 15-20 人 21 人以上

質問 13 典型的な一週間のうち受精卵凍結保存を行う患者の人数は何人くらいですか？

0-2 人 5-10 人 10-15 人 15-20 人 21 人以上

質問 14 典型的な一週間のうち未受精卵凍結保存を行う患者の人数は何人くらいですか？

0 人 1 人 2-3 人 4-5 人 6-10 人 11 人以上

質問 15 排卵誘発はどんな方法を用いられますか？おおよその割合を
ご回答ください。

GnRH アゴニスト法 Long 法 _____ %

 Short 法 _____ %

GnRH アンタゴニスト法 _____ %

mild stimulation

 クロミフェン _____ %

 レトロゾール _____ %

 その他の方法 _____

D.乳がん患者に対する生殖医療のご経験についておたずねします。

(あてはまるものに○をつけてください)

質問 16 乳がん患者さんの生殖医療に関わる機会がありましたか？

はい (2010-2011 の 2 年間に____人くらい) / いいえ

質問 17 乳がん患者さんが生殖医療を希望した場合、受け入れたいと思われませんか？

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 18 乳がん患者に生殖医療を行う場合、排卵誘発の各方法についてどのようにお考えになりますか？

それぞれにつきあてはまるものに○をつけてください。

GnRH アゴニスト法 Long 法 用いる/用いない

Short 法 用いる/用いない

GnRH アンタゴニスト法 用いる/用いない

mild stimulation

クロミフェン法(クロミフェン+HMG)

用いる/用いない

レトロゾール法(レトロゾール+HMG)

用いる/用いない

その他の方法_____

質問 19 一般の患者と乳がん患者の排卵誘発などの方法を変えるべきとお考えですか？

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 20 乳がん患者で結婚されている方の受精卵保存は自院で受け入れ可能ですか？

可能である 不可能である

質問 21 乳がん患者で結婚されていない方の場合未受精卵の保存は自院で受け入れ可能ですか？

可能である 不可能である

質問 22 乳がん患者の生殖医療を検討する際に不安や障壁を感じますか？

そう思う 少しそう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

質問 23 不安や障壁だと感じるものについて○で囲んでください(複数回答可)

1. 乳がんの再発リスクがわからない、もしくは高い
2. 乳癌についての専門的知識がないこと
3. 乳がん治療医に直接相談するのが困難
4. 乳がん患者の診療自体が苦痛・面倒である
5. 他患者と異なる乳がん患者特有の対応が困難
6. 患者に経済的余裕がない
7. 患者にパートナーがいない
8. その他（自由記載）

質問 24 若年乳がん患者さんの育児希望をサポートしていくネットワーク作りを企画しています。生殖医療専門医のお立場から、どのような情報や体制があればそのような患者さんに有益なネットワークが構築できるでしょうか、またどのような体制であればご協力して頂くことを前向きに検討して頂けますでしょうか。ご助言賜りたく存じます。

ご協力ありがとうございました。

生殖医療についてのアンケート

以下のご質問に該当する項目に○を付けて下さい

質問20 ……結婚されている方のお受け入れ

可能である 不可能である

質問21 ……結婚されていない方のお受け入れ

可能である 不可能である

御芳名

御所属機関

ご協力ありがとうございました。
投函の際は同封の個人情報保護シールをご利用下さい。

1040045

東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院
乳腺科・腫瘍内科

清水千佳子 宛

